

【6月上旬刊行】

関連棚：ノンフィクション・伝記・太平洋戦争・日系移民

ひが 比嘉トーマス太郎 沖縄の宝になった男

四六判 並製288頁 予価本体2,200円 下嶋哲朗著 ISBN978-4-88065-566-6 C0023



太郎 9歳

時代の大きなうねりに翻弄されながらも沖縄と日系人の地位向上に尽くした、比嘉太郎の生涯。「講談社ノンフィクション賞」受賞作家の最新作!

「ぼくは世のために尽くす人になる」

比嘉トーマス太郎、1916年生まれ。日系ハワイ移民二世。貧困と人種差別にめげず、持ち前の向学心によりオアフ島で水力電気を発明。22歳で早稲田大学に留学するも、日米開戦が間近になり帰国。米国での徴兵、日系部隊100大隊編入、イタリア戦線で重傷を負い除隊。その後沖縄戦に志願。洞窟に潜む住民に投降を呼びかけ多くの命を救う。

なかぐすくそん

「わたしは中城村の出身です。
信じて出てきてください」

戦後、沖縄の惨状を世界に訴え救援活動に奔走。医薬品、ミシン、ノート、鉛筆、衣類、など様々な物資と500頭以上の豚を沖縄に届けることに繋がり、疲弊した島民の生活や食料事情の改善に貢献した。また粘り強い運動により念願の移民法が改正。移民の米国籍取得の道を開く。そして制作に4年を費やしたドキュメンタリー映画「ハワイに生きる」が完成。



米国内収容所訪問の許可証写真

「沖縄人とは何か？比嘉太郎のような人だ」
大田昌秀・沖縄県知事(当時)

「帰化権運動を先頭に立って開始し、それを移民たちに感謝されたとき長い苦闘が一度に報われた気がしました」1985年、一つの偉大な人生が終わり、その祝福の鐘が鳴る。

【著者】下嶋哲朗(しもじま・てつろう)

ノンフィクション作家・画家。長野県上田市生まれ。武蔵野美術大学油絵学科中退。1976年から約1年間家族と石垣島に移住。1983年から地元住民らと洞窟「チビチリガマ」の調査を行い沖縄戦時に壕内で集団自決があったことを明らかにした。1994年『アメリカ国家反逆罪』で講談社ノンフィクション賞受賞。ハワイの沖縄出身日系人が戦後復興のために豚を沖縄に送った事実を掘り起こした『豚と沖縄独立』(未来社)刊行。他に南洋諸島や満州国などへの海外移民を描いた『非業の生者たち』(岩波書店)など著作多数。



太郎夫妻と子どもたち



水曜社 東京都新宿区新宿1-31-7
☎03-3351-8768

Fax03-5362-7279

☐FAX中止

返品入帖可 取次:・ト・日・RBN・JRC・中・教・鎌谷・全官報

新刊配本5月28日必着(以降は注文扱返条付)

貴店印 【新刊委託】	水曜社		
	注文冊数	ひが 比嘉トーマス太郎	沖縄の宝になった男
	御担当 様	冊	ISBN978-4-88065-566-6 C0023 予価本体 2,200円